

ドイツ館とその周辺



2018年「第九」アジア初演100周年

1918年6月1日。鳴門市にあった「板東俘虜（ふりょ）収容所」でドイツ人捕虜によって、ベートーヴェン「第九」交響曲がアジアで初めて全曲演奏されました。2018年（平成30年）に「第九」アジア初演100周年を迎え、この機会に「なると第九」を、「第九」の素晴らしさを鳴門から世界へ発信します。



「第九」アジア初演100周年記念
ロゴマーク

ベートーヴェン



ドイツ館 ベートーヴェン像

鳴門市ドイツ館



ドイツ橋



鳴門市賀川豊彦記念館

「第九」演奏会

「第九」のふるさとである鳴門市では、6月1日を「第九」の日と定め、毎年6月の第一日曜日に演奏会を開催しています。

「第九」アジア初演の地・・・鳴門

第一次世界大戦当時、鳴門市の板東俘虜収容所ではドイツ人約千人が暮らしていました。彼らは自らの力で、オーケストラや吹奏楽団、合唱団を作り、収容所から解放されるまでの約3年間に100回以上の音楽会を開きました。そして1918年（大正7年）6月1日。「人類愛」を歌うベートーヴェン作曲の交響曲第9番（通称「第九」）が、アジア・日本で初めて板東俘虜収容所内で、ドイツ人捕虜によって全曲演奏されました。初演の背景には、当時としては異例の捕虜に対する人道的な配慮を行った「松江豊寿」所長と、おもてなしの精神をもつ「地元民」の存在がありました。戦争を乗り越え織りなされた友愛の史実は、いまなお鳴門市の誇りとして受け継がれています。



ベートーヴェン「第九」初演の再現

ドイツ村公園



ばんどうの鐘

1983年に、元ドイツ兵の寄付などをもとに恒久平和と日独友好を願ってドイツ村公園の丘陵地に建てられました。



板東俘虜収容所跡地

板東俘虜収容所跡地は、「第九」がアジアで初めて演奏された場所を公園として整備したところです。家屋のレンガ基礎や、給水場跡などを当時のまま保存しています。



ドイツ兵慰霊碑

ドイツ兵慰霊碑は、板東俘虜収容所で亡くなった捕虜を弔うために捕虜自身が建設したもので、徳島県文化財指定史跡となっています。隣には、全国の収容所で亡くなったドイツ兵捕虜を弔うために建てられたドイツ兵合同慰霊碑もあります。

鳴門市ドイツ館

1917年から1920年までの3年間、板東俘虜収容所で暮らしていたドイツ人捕虜たちと板東の人々との交流の様子を後世に伝えるために建てられたドイツ館には、当時の貴重な資料が数多く展示されています。また、映像や模型、ジオラマ、ロボットなどのハイテク技術を駆使して誰もが楽しみながら見学できるようになっており、ドイツ人捕虜たちの音楽活動を紹介する「第九シアター」では実物大の人形が演奏を聴かせてくれます。

●鳴門市大麻町松字東山田55-2 ☎088-689-0099



道の駅「第九の里」物産館

物産館の建物は、第一次世界大戦時に建てられた板東俘虜収容所の兵舎（バラック）の一部を移築したもので、国登録有形文化財に指定されており、当時の雰囲気を感ずる事ができます。館内では、地元で採れた新鮮な農産物を販売しています。

●鳴門市大麻町松字東山田53 ☎088-689-1119

ドイツ橋

ドイツ橋は、大麻比古神社の敷地を流れる板東谷川に架かるアーチ橋です。大麻比古神社裏にある長さ9.6mの石積みの橋で、板東俘虜収容所に暮らしていたドイツ人捕虜たちが当時日本にはなかった石積みの技術を用いて造りました。2004年1月30日に徳島県の文化財史跡に指定されています。

鳴門市賀川豊彦記念館

鳴門市で少・青年期を過ごした賀川豊彦（1888年～1960年）は、大正デモクラシーの先頭に立ち、日本の民主化に大きく貢献しました。生涯にわたり「友愛・互助・平和」の精神を提唱し続け、ノーベル平和賞・文学賞候補にもなりました。この記念館は、彼の精神を受け継ごうとする市民らの募金により建設され、その生涯と功績を垣間見ることができます。

●鳴門市大麻町松字東山田50-2 ☎088-689-5050

